

●指導計画

- 学 年 第1学年
- 主題名 「情報モラルと友情」 (B 友情, 信頼)
- ねらい 悩みや葛藤を共に乗り越え、友情を深めていくことの大切さに気づき、互いに励まし合い、心から信頼しようとする心情を育てる。
- 教材名 「短文投稿サイトに友だちの悪口を書くと」 (出典:「新しい道徳1」東京書籍)

○学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 本時の内容について、考える。	○インターネットとの関わりを思い出してみてください。 自分ごととして捉えられるようにアンケート調査を活用する。	○アンケート結果から、今回の内容と自分との関わりを想起させ、主題への方向付けとする。
展開	2 教材を読み、登場人物の心情について話し合う。 3 信頼できる友だちになるために必要なことを話し合う。	○「コウタが、翌日あわててイチロウに電話したのではどうしてだろう。」 →投稿させるのをやめさせよう。 →人の悪口を書き込ませない。 「学び合い」 ○「ネットに投稿する時に気を付けなければならないことには、どういうことがあるだろうか。」 →人が傷つくことを書かない。個人情報を書かない。ウソやデマを書かない。 情報モラルに関わるトラブルに関わる対処の仕方を学習するのではなく問題の根底にある道徳的価値について考えを深める。 ◎「信頼できる友だちになるためには、どういうことが必要だろう。」 →相手への思いやりをもつ。言うべき時にしっかりと伝える。	○ 自分の意見を書く時間をしっかりと確保して、自分の意見を整理できるようにする。 ○ アンケート結果にも再度触れ、グループを活用して自分の生活の中にそういう機会が実際にあるのだという実感を持たせる。 生徒の意見を想定して、深い学びに向かえるような「問い返し」の発問を組み込む。 ○「注意することも友情だ」という意見には、「本当にあなたは注意できますか」と教材や日常生活を踏まえて問い直す。
終末	4 本時の感想を書き、感想を交流する。	○「これからの自分の生活も踏まえて、感想を書きましょう。」 <まとめ例>「インターネットは使い方によっては、罰則もある。もしも友だちがそのルールを破りそうなら、本当の友だちとして、しっかりと注意していきたいと思う。」 振り返りの時間を確保して、この授業で学んだことをしっかり自分の中で整理させる。	☆ 悩みや葛藤をともに乗り越え、互いに励まし合い、友だちと心から信頼し合える関係を築くことについて自分の問題として考えを深めている。 (ワークシート)